

令和6年度第1回阿見町地域福祉計画策定委員会

日時：令和6年10月4日（金） 10：00～12：00

場所：阿見町役場 4階 全員協議会室

出席者

委員12名：松田委員・下司委員・新橋委員・青山委員・田邊委員・大竹委員・
加川委員・武井委員・武藤委員・浅野委員・小林委員・山崎委員

事務局3名：社会福祉課 湯原課長・久保田課長補佐・木下係長

欠席者4名：下村委員・佐藤委員・笠井委員・苫米地委員

傍聴人数：0名

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 副町長挨拶

4. 自己紹介

5. 委員長、副委員長選出

委員長に松田智行委員、副委員長に武藤次男委員を選出

6. 委員長挨拶

7. 協議事項

(1) 今後のスケジュール等について

【事務局】

資料1, 資料2について説明

【田邊委員】

資料1の「1.地域福祉とは」について、地域住民、行政、社会福祉関係団体等が相互に協力する仕組みを作るのは目的ではなく、手段だと考えている。地域福祉の目的とし

で、「住民自らが地域での支えあい、助け合いを進めるものです」という記載をその後に加えたほうが良いのではないかと。

【事務局】

実効性のある計画にするため、新しい計画の中に組み入れるよう、検討する。

【委員長】

住民自ら動くのはなかなか難しいこともあるため、行政や社会福祉団体も動くということも明記しても良いかと思うがどうか。

【田邊委員】

問題ない。

(2) 町民アンケートの内容について

【事務局】

資料 3 について説明

【新橋委員】

問 2 について

10～20 代ではなく、10 代と 20 代で記載を分けたほうが良いのではないかと。

【加川委員】

問 1 について

性別を聞く必要はあるのか。

【事務局】

前回のアンケートの結果を見ても性別ごとの分析はしていないが、回答率等の基礎資料として性別の情報も把握したいと考えている。

【加川委員】

であれば、LGBT の観点からも、「回答しない」を 3 つ目の選択肢にするのが良いと思う。

【武井委員】

問 1 については「回答しない」が良いと思う。このアンケートの回収率はどれくらい

か。

【事務局】

前回のアンケートは回収率 34.1%だった。他の計画策定時のアンケートも、回収率は3割程度。

【武井委員】

やや低いのではないか。

【事務局】

高齢者からの回収率は高く、若年者からの回収率は低い傾向がある。今回の計画は、QRコードを用いてスマートフォン等からWEB回答もできるようにすることで、少しでも若年者からの、ひいては全体の回収率アップにつなげたいと考えている。

【武井委員】

回答すると景品がもらえる等は難しいと思うので、ペンを置いていない家庭のため鉛筆を1本入れるというのはいかがでしょうか。

【事務局】

回収率アップへの対応については検討する。

【副委員長】

以前娘のもとに、無作為抽出のアンケートが届いたことがあったが、返却期限が過ぎたので捨ててしまったようだった。まずは開封したくなるような方策があったほうが良い。

【委員長】

開封したくなるよう、封筒に工夫ができればいいかもしれない。

問1については総合計画で使用された「回答しない」を追加する。問2は10代と20代を分けて記載する。

また、問7の質問の最後に「あてはまるものすべてに○」を付けたほうが良い。

【田邊委員】

問8 - (2) について

「障害者福祉」「高齢者福祉」を「障害者に関する福祉」「高齢者に関する福祉」にするのはいかがでしょうか。

【武藤委員】

問 15 について

「問題点」ではなく、もっとやんわりした表現「気づくこと」「気になること」に変更したほうが良い。

【田邊委員】

ひとり暮らしの高齢者が増えている、若い単身者が増えている、表札のない家が増えている等が自分の地域では問題になっている。

【事務局】

単身世帯の増加を追加するかも含め、選択肢について検討する。

【下司委員】

ヤングケアラーや外国人世帯に関することも地域福祉計画の中に入れ込めたら良いのではないかと。

【委員長】

問 7 と問 15 が若干重複した質問になっている。問 7 と問 15 がもう少し連動した文言になると分かりやすい。

外国人という表現はしないほうが良い。

【田邊委員】

問 16 について

選択肢の文言が難しいのではないかと。

【武井委員】

孤独・孤立対策推進法が 4 月に施行された。問 21 に孤独や孤立について加えるのはどうか。

【小林委員】

問 27 について

阿見町でボランティアセンターというのはいないし、ボランティアセンター機能は町民活動センターが担っているのではないかと。また、情報誌も町民活動センターの情報誌が発行されている。町民の方が分かりやすい文言のほうが良いと思うので、町民活動センターの意見も聞きながら文言の整理をしたほうが良いと思う。

また、現在はボランティア活動というより、町民活動・市民活動という広い範囲での活動になっている。選択肢の1～3は社協の事業で4以降は町民活動センターの事業になるので、ご協議いただきたい。

【浅野委員】

ボランティア活動と市民活動で大きな差異はないと捉えている。営利を目的としない活動がボランティア活動であり市民活動であり、差異があるとすれば、市民活動は組織的・継続的、ボランティアも組織的・継続的に行うこともあるが、個人的・単発的に行う活動をいう。市民活動の中にボランティア活動も含まれるのではないか。一般的に皆さんが市民活動とボランティア活動のどちらが分かりやすいのか。

町民活動センターは、市民活動を支援する場所として設置しているが、基本的には市民活動団体が町民活動センターに登録し、その登録団体向けに支援している。すべてのボランティア団体を町民活動センターで網羅しているわけではない。登録していない団体もあるので、町民活動センターをボランティアセンターとして良いのか、疑問が残る。

また、登録団体の活動を紹介する情報広報紙「えがお」を作成している。

【委員長】

この部分は町と社協とですり合わせをお願いしたい。

【田邊委員】

牛久市は牛久市ボランティア市民活動センターがあり、ボランティア・市民活動はそこに行けばよいが、阿見町は分かりにくく感じる。

【新橋委員】

問27について

SNS等とあるが、SNSのほうが分かりやすいのではないか。

【事務局】

SNS等という表現については、検討する。

【大竹委員】

ボランティアについて、町民活動センターと社会福祉協議会であいまいなところがある。

【委員長】

ボランティアを登録するのは、町民活動センターと社会福祉協議会の2か所ある。そ

の窓口を一元化してほしいという選択肢を入れたほうが良いのか。さらに、アンケート後、来年度の計画策定の際、計画の一つとして盛り込んでもらうか、というところになると思う。

【田邊委員】

問 26 について

自治会に関係なく地域には様々な団体があるので、「自治会での交流活動」を「自治会館での交流やサロン活動」としてはどうか。

【武井委員】

問 40 について

回答欄が 4 行しかないので、もっと広くとったほうがいろいろな意見が集まるのではないか。

【田邊委員】

あみまるくんがあるが、他市で走っているようなコミュニティバスの運行を進めてほしい。交通の利便性の確保という意味で、それを地域福祉計画に含めてもらいたい。

【委員長】

交通の利便性については、他の会議でも意見が出ている。選択肢の文言の表現について、検討しても良いかもしれない。

【武藤委員】

高齢福祉課では福祉タクシーという制度がある。あみまるくんの使いにくさばかり前面に出ていて、福祉タクシーの利用状況や使いにくさはあまり出てきていない。コミュニティバスと並列で福祉タクシーの充実等を出していけばより明確になるのではないか。

【下司委員】

障害の「害」の字はひらがなで書かれることが増えているが、この計画では漢字でいいのか確認したい。小中高・大学でもひらがなが使われている。彼らはひらがなに慣れているなかで、町の計画が漢字を使用していることにギャップを感じてしまうのではないか。

行政計画には事業名も入るので、漢字の「害」が使われることもある。またひらがなと漢字が混在すると目が疲れるので、読みやすさを重視して漢字を使うのであれば、それも理解できる。漢字を使用するのであれば、注釈をつけると読み手には優しいのかな

と思う。

【事務局】

障害者基本法が漢字を使っていることに倣い、阿見町の計画等は漢字で統一している。ただし、広報やお知らせ等ではひらがなを用いることもある。

【委員長】

町民アンケートは町から町民へのメッセージという側面もあるので、可能であればひらがなでもいいのではないかと思う。

【事務局】

今日いただいた意見を検討し、あらためて委員の皆さんに案を確認していただきたいので、よろしく願います。

(3) その他

特になし。

8. 閉 会